



# 多文化共生先進取組事例「体験塾」in 佐賀 実績報告 ～外国人住民とつながる地域社会を目指して～

(一財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課

## 開催の概要

多文化共生先進取組事例「体験塾」は、多文化共生にかかる先進的な取り組みの事例を学び、施策立案スキルの向上とともに、参加者間のネットワークの構築を図ることを目的とする実地研修です。

2023年度は全2回の実施を予定していますが、第1回は、佐賀県佐賀市において、「外国人住民とつながる地域社会～技能実習生の支援を例に～」をテーマに、7月20日、21日の1泊2日で開催しました。

全国各地から集まった参加者の皆様と、先進的で特色のある活動をしている団体について学び、それぞれの地域でどのように活かしていくかワークショップで掘り下げました。

### <体験塾 in 佐賀 スケジュール概要>

第1日：7月20日（木）
オリエンテーション講義、参加者自己紹介
佐賀県の取組について (講義) 佐賀県の在留外国人の現況・多文化共生施策 (講義・視察) 佐賀県国際交流協会 (SPIRA) の取組・視察
(講義) コムスタカー外国人と共に生きる会の取組
(講義) よのうづ国際交流の会の取組
(講義) 北九州国際交流協会の取組
1日目のまとめ・振り返り
第2日：7月21日（金）
オリエンテーション
(講義) 佐賀未来創造基金の取組 (視察) スチューデント・サポート・フェイス (S.S.F.)
ワークショップ、全体共有・質疑応答

## オリエンテーション

1日目のはじめに、研修に臨むにあたってのオリエンテーションを実施しました。今回の研修の総括ファシリテーターを務めていただいた、地域国際化推進アドバイ

ザーの矢富明德様に、本研修テーマの背景や研修受講のポイント・心構えについてご説明いただきました。

## 先進的・特色のある活動事例の講義

オリエンテーション終了後には、佐賀県国際課から在留外国人の現況および多文化共生施策について、佐賀県国際交流協会から多文化共生に向けた取り組みについてご説明いただき、協会内の施設見学を行った後、九州地区で先進的かつ特色のある活動を行っている3団体に講義をしていただきました。

**コムスタカー外国人と共に生きる会**には、技能実習生をはじめとする外国人住民を取り巻く環境と活動内容についてご説明いただきました。団体の窓口には、雇用、社会保障、DVを含む夫婦間のトラブル、子どもの教育、家族の介護、相続、被害者の救済など、外国人住民が抱える多岐にわたる相談が年間約350件も寄せられます。立場の弱い人たちのために、差別や不正のない社会を目指し、親身になって取り組まれている姿が印象的でした。

**よのうづ国際交流の会**には、大分県佐伯市米水津（よのうづ）地域の外国人技能実習生の支援についてご説明いただきました。佐伯市あまべ商工会が事務局となり、外国人を雇用する地域内の12社1施設とともに、米水津在住の外国人と一緒に日本語教室、防犯・防災講習会、スポーツ大会などの交流事業を行っています。技能実習制度の監理団体でもある佐伯市あまべ商工会が、企業と実習生と地域社会の重要なつなぎ役となり、外国人住民と信頼関係をしっかり作り上げていました。

**公益財団法人北九州国際交流協会**には、外国人相談窓口が多文化ソーシャルワーカーを配置し、相談内容に応じて関係機関と連携しながら伴走型支援を行っている事業についてご説明いただきました。通訳業務だけでは解決できない複雑な課題に対し、専門的見地からコーディネートやアウトリーチを実施しています。



佐賀県国際交流協会での視察

2日目は、公益財団法人佐賀未来創造基金に、社会的孤立の解消や災害・復興支援、地域の防災力向上の仕組みづくりのために、いかに日頃から地域や関係者間でコミュニケーションをとっていくことが大切かを団体の活動を通してご説明いただきました。

その後、特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス (S.S.F.) を視察しました。S.S.F. では不登校、ひきこもり、非行、ニートなど困難を抱える子ども・若者のために、就労支援、社会参加・職業的自立支援などを行っています。外国人住民も広く支援の対象としており、親身になって相談に応じているスタッフの方々の熱意を感じました。また視察を通して、全国各地でもS.S.F. のようにリソースが豊富な団体が類似の居場所を提供できれば、外国人住民の支援のセーフティネットとなりうるのではないか、と考えさせられました。



S.S.F. での視察

## ワークショップでの振り返り

講義終了後にはワークショップを実施し、参加者それぞれが学んだことや考えたことをワークシートに書き込みながら講義を振り返り、グループで内容を共有しました。どうすれば外国人住民と日頃から関係を作れるか、

どんなイベントなら参加してもらえるかなど活発な意見交換が行われました。

振り返りにあたっては、矢富様から、講義で学んだことを実践に活かすためのポイントについてアドバイスをいただきました。2日間の学びを自分の地域の活動にどうつなげるかを話し合う貴重な時間となりました。ワークショップの様子



## おわりに—外国人住民とつながる地域社会を目指して—

今回の体験塾を通して、第一線で素晴らしい取り組みをしている団体があり、熱心に地道に取り組んでいる人たちによって活動が支えられていることを実感できました。

現在、国において技能実習制度および特定技能制度の見直しの動きがあり、今後、外国人労働者の受け入れの加速が見込まれるなかで、外国人が地域社会とともにいきいきと暮らし、働くことができるまちづくりは、行政にとって喫緊の課題です。

参加者の皆様からは、「ネットワークづくりを進めていくことが重要だと感じた」「今回の研修で得た知識を職場の人と共有したい」「自分たちの地域でできることから取り組んでいきたい。まだまだ可能性はたくさんある！」など前向きな感想をたくさんいただきました。皆様がそれぞれの地域で「外国人住民とつながる地域社会」のために取り組むうえで体験塾での学びが活かされること、その取り組みが全国に広がっていくことを願っています。

## 参考資料

体験塾のホームページはこちらから！



これまでの実施報告を掲載しています。2023年度第2回の開催については自治体、地域国際化協会、市区町村国際交流協会に通知し、こちらのホームページでもお知らせします。  
<https://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/taken.html>